

1 本年度の重点教育目標

よさを認め合いながら しっかり学ぶ北美原の子 ～合言葉～ かがやきいっぱい 元気いっぱい やさしさいっぱい
--

2 本年度の取組の重点

①表現する子「かがやき いっぱい」の育成 ②たくましい子「元気 いっぱい」の育成 ③心豊かな子「やさしさ いっぱい」の育成 ④家庭・地域・学校の協働的取組
--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①表現する子「かがやき いっぱい」の育成	○学習規律・「学び合いの姿」定着	a		A	A	
	○ICTの平準化と授業改善	b	校内研究だけではなく学年やブロック等での ICT 活用交流を行い学級や学年ごとの格差を縮めていくようにするとともに、アプリなどを授業のどの場面でどのように利用していくのか明確にしていく。	A	B	
	○自主自立につながる家庭学習の取組	a		A	A	
②たくましい子「元気 いっぱい」の育成	○健康維持・体力増進の習慣形成	a		A	A	
	○校内外のきまりの理解と遵守	b	継続的に指導して意識を高めるとともに、校外生活については学級通信等で家庭にも働きかけていく。	B	A	校内の掲示が明確で、校外での決まりも十分守られている点、学級通信できまりについて周知されている点を考慮すると達成状況 a が妥当。
③心豊かな子「やさしさ いっぱい」の育成	○自他の存在を尊重する「あいさつ習慣」の形成（運動－習慣の形成）	b	あいさつ推進計画を確認・徹底しながら、委員会等でも取り組んでいく。	A	B	
	○支持的風土を醸成する学級経営（学年内のそろえた指導・支援）	b	支持的風土の具体的な提示と担任としての振り返りを徹底していく。	A	B	
	○児童の個性・特性に応じる指導・支援・配慮	b	情報を共有し関係機関との連携を機能させていくようにする。	A	B	
④家庭・地域・学校の協働的取組	○家庭との協働につながる ICT 活用の取組の充実	a		A	A	
	○CS（コミュニティースクール）を活用した相互補完関係の形成	b	CSの取組の日程や内容を資料等を用意して更に共有していきたい。	B	A	CS取り組み資料の準備に妥当性があり、委員会等での修正意見もなかったことを勘案すると達成状況 a とすべき。
	子どもと向き合うための時間を創出する業務改善の平準化	b	会議・打ち合わせ等のタイムマネジメントを行い、子どもと向き合う時間を更に創出するよう努めていく。	A	B	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。